

松翠会 だより

第八号

平成 25 年 7 月 13 日



会長 加藤 主税
(17回生・相山女学園大学教授)

松翠会新会員の皆様へ

皆さん、松翠会入会おめでとうございます。僕は大学で言語学、英語などの講義を担当し、学外では古い評論家、コバ評論家として活動しています。特に古い関係では、中日新聞ウェブ版「中日新聞プラス 達人に訊く」で連載しています。ウィキペディア「瀬戸高校の著名な卒業生」にも掲載されています。瀬戸高校の図書館にボクの著書60冊中40冊ほどが置いてあります。是非ご覧下さい。

さて、瀬高を巣立った皆さん方は、今頃はそれぞれの新天地で、大学生、専門学校生、会社員などとして、頑張っておられることでしょうね。同時に松翠会会員でもあるわけです。

我々会員は時間を超え、同じ立場にいた仲間ということで、皆さん方に対して特別な感を持っています。皆さんのバックには会員20,000名程が見守っていますよ。

ギスギスとした人間関係は昔より、厳しくなって来ている感があります。でも松翠会会員(瀬高卒業生)という立場は、それを克服する潤滑油になります。一般に同窓会と言えば、クラス会、学年会はありますね。しかし、卒業生全体を含むのが本当の意味での同窓会です。会員としてこの松翠会をもり立てて下さい。

次の言葉を送って、お祝いの挨拶にしたいと思います。「失敗は成功の元。同じ失敗は馬鹿の元。(ちから教授のコバ)」
さて、来たる平成25年10月26日(土)(パルティセと)の総会(別掲)でお会いできることを楽しみにしています。

松翠会 会長 加藤主税
(17回生・相山女学園大学教授)

平成25年度松翠会総会 懇親会のご案内

日 時	平成25年10月26日(土)	会 場	パルティセと 5Fアリーナ (瀬戸市栄町45番地 名鉄瀬戸線 尾張瀬戸駅東)
	受付 午前11時 総会及び懇親会 11時30分		
会 費	4,000円(平成25年卒業生は2,000円)		
特別案内学年	昭和24年卒(高校1回)、34年卒(高校11回)、 昭和44年卒(高校21回)、54年卒(高校31回)、 平成元年卒(高校41回)、11年卒(高校51回)、 平成21年卒(高校61回)、25年卒(高校65回)		



昨年の総会

昨年の懇親会

役員会より

～久しぶりに、同窓生と、学び舎での思い出を語りましょう!～

～久しぶりに、同窓生と、声高らかに校歌を歌ってみましょう!～

総会及び懇親会へ、多数の参加をお願いいたします。
特別案内学年へは、学年幹事から案内ハガキなどでご案内がされます。その他の学年の方々も参加できますので、ぜひ、お知り合いの方々に知らせてあげてください。
また、総会の折りに、在校生・卒業生で顕著な研究・活動実績のあった方を顕彰する「松翠会賞」の表彰制度がありますので、心当たりの会員を推薦してください。

われらが仲間

『皆で仕事の感動を』を出版

愛知県陶磁器工業協同組合理事長
加藤 庄平さん(18回生)

『皆で仕事の感動を』は、平成24年7月から9月まで中部経済新聞において32回にわたって連載された「マイウェイ」を改題し、新書化されたものです。

著者の加藤庄平(六代目)さんは、家業の丸窯製陶所、そして愛知県陶磁器工業協同組合理事長として、40年余にわたりやきものづくりに深くかかわってきとられ、折から瀬戸市では、陶都瀬戸の再発見と発展につなげていくことを主目的とした「陶祖八〇〇年祭」が開催中であり、これを機会に瀬戸の陶磁器産業界の栄枯盛衰と自分の半生をつづってみようと、執筆されたものです。



(中部経済新聞社から発行 この書籍は母校に寄贈されています。加藤庄平さんは現在、瀬戸市背戸側町に在住)

第8回 松翠会杯 ゴルフコンペ

(平成25年5月9日 品野台カントリークラブ)

第8回松翠会杯のゴルフコンペが、晴天に恵まれたなか開催されました。参加資格は満60歳以上のシニアで、全26組・男女91人がプレーを楽しんだ。

優勝者は、加藤次郎さん（高校16回生）で、ベストスコア賞は、男性は豊田正則さんの81、女性は川原春子さんの97でした。



優勝した加藤 次郎さん

優勝 **加藤 次郎** 

85 ネット71.80

2位	加藤 治雄	84	72.00
3位	新見 勝矢	90	72.00
4位	山田 勝	98	72.80
5位	井上 守政	94	73.60

ニアピン賞

(アウトスタート) 加藤治雄、川本武光、加藤 収、中條康延
(インスタート) 大津堅悟、川本 徹、加藤次郎、豊田正則

“一握りの土から 魅力ある焼きものづくり 燃やす情熱!!”

陶芸家 赤津龍山窯 前川 電光さん(瀬戸高校11回生)



略 歴

- 1959年 瀬戸高校卒業
- 1968年 瀬戸市民展(陶彫)市長賞
- 1974年 民間会社での勤務を終え、龍山窯を創設
- 1994年 瀬戸少年院陶壁「生命」建立
- 2002年 米国スミソニアン「フォークライフ・セラミック フェスティバル」手捻り実演
- 2003年 チュニジア ナブル市訓練センターで陶芸指導(～2005年)
- 2013年 第1回瀬戸・藤四郎トリエンナーレ 審査員特別賞



前川電光先生は言わずと知られた、「手捻りの狛犬づくり」に情熱を傾けておられる陶芸家。この前川先生が、第1回瀬戸・藤四郎トリエンナーレで、審査員特別賞を受賞されました。このトリエンナーレでは、瀬戸市内の陶土採掘場で自ら土を採取し、自ら粘土をつくり、自らその粘土で制作する、同じ素材で競う公募展です。全国から117人もの方の出品があり、前川先生は、「狛犬一対」の作品で審査員特別賞を受賞されました。

取材で訪問すると前川先生は、いつもどおりバンダナを額に巻いて、いつもどおりにこやかに出迎えていただきました。早速に、瀬戸高校を出て陶芸家とは以外ですね、とお尋ねしてみました。「卒業後に民間会社に就職してデザインや原型の仕事をしていましたが、作陶に打ち込みたくてこの道に入りましたわ。」と。高校時代は、「加藤時子先生の指導で、美術クラブで楽しく学生時代を過ごしたよ。」そして、「俺は真面目学生で生粋の硬派だったよ」と、照れくさそうに語っていただけました。

これまでの長い作陶生活での印象深い事は、と尋ねたところ、「米国のスミソニアンで、その後に国務長官になったコンドリーザ・ライスさんに手捻り実演を披露させてもらったこと。JICAの派遣で、チュニジアのナブル訓練センターに2年間滞在し、同窓生の深見昭司氏と陶芸指導に行ったことが懐かしいな」と、感慨深く語られました。

前川先生は、イベントなどでの狛犬づくり実演の折に、ずっとおしゃべりされながら作陶されますね、とお尋ねすると、「おしゃべりしながらの方が手が上手く動くんだよ」と。絶妙なトークでも人を引きつける魅力をお持ちの前川先生でした。



第1回瀬戸・藤四郎トリエンナーレ 審査員特別賞「狛犬一対」 幅44cm×奥行28cm×高さ53cm

〈取材後記〉

「これからも、土味豊かな作品をつくるためには、いそがず、一つひとつ手づくりでの創作に取り組んでいくよ」との言葉に、「一握りの土から 魅力ある焼きものづくり 燃やす情熱」を多いに感じた前川電光先生への取材でした。

お知らせ ☆瀬戸高等学校創立九十周年 記念事業

① “創立九十周年記念 講演会”

平成25年11月21日 午後1時30分から 高校体育館
講 師：山川 一年氏(高校11回生)
演 題：瀬戸高校九十年のあゆみ
同窓生の皆さん是非ご参加ください。

② “創立九十周年記念 永井陽子短歌賞募集”

瀬戸高校出身の現代歌人・永井陽子さんをしのぶ短歌募集を企画し、広く作品を募集します。卒業生の皆さんの投稿をお待ちしております。
【テーマ】テーマの指定はありません。応募は1人1首です。
【応募方法】官製はがきにて、作品、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒489-0988 瀬戸市東山町1-5 瀬戸高等学校 短歌募集係へお送りください。
メールの場合も、項目は同じで、seto90.tanka@gmail.comへ送信してください。
【投稿期限】平成25年9月30日必着